

## 墨田区教育施策大綱にかかる主な事業の進行管理表（平成29年度事業）

### 目指す子どもの将来像

- (1) 将来、社会で活躍し、地域に貢献できる自立した人
- ア 感性豊かでいろいろなことに興味・関心をもって学び、実践できる人
  - イ 自己肯定感を育みながら、まわりの人の立場や気持ちを思いやることができる人
  - ウ スポーツや遊びを通じて健やかな体を育むことができる人
- (2) 郷土に誇りを持ち、異文化とも敬意をもって積極的に交流できる国際感覚のある人

### 施策の方向

- (1) 区立学校にかかる施策

#### 学力の向上

1【学力向上「新すみだプラン」推進事業】	p 1
2【授業改善プラン推進事業】	p 1
3【「学習意欲の向上」に関する共同研究】	p 1
4【習熟度別指導】	p 2
5【教職員研修事業】	p 2
6【特色ある学校づくり等研究推進補助事業】	p 2
7【ICTを活用した教育】	p 3
8【幼保小中一貫教育推進事業（連携型）】	p 3
9【幼児教育の充実】	p 3
10【すみだチャレンジ教室】	p 4
11【学校図書館の充実】	p 4
12【学校と図書館の連携強化】	p 5
13【校務改善】	p 6
14【学校（園）における第三者評価の実施】	p 6

#### グローバル化に対応した教育の推進

15【小学校英語の教科化への対応】	p 6
16【NT（ネイティブティーチャー）による効果的な授業の展開】	p 7
17【中学生海外派遣】	p 7

#### 特別支援教育の充実

18【特別支援教育推進事業】	p 7
19【特別支援教室の整備】	p 8

#### 体験学習を通じた教育の推進

20【リーダー育成事業】	p 8
--------------	-----

#### いじめの防止

21【人権教育の推進】	p 9
22【道徳の教科化への対応】	p 9
23【いじめの問題への対応】	p10
24【SNS等の適切な使い方の啓発】	p10

#### 学校不適応の解消

25【不登校問題への対応】	p10
26【帰国・外国人児童・生徒への対応】	p11
27【教育相談推進事業】	p11
28【スクールサポートセンター】	p11

#### 体力の向上

29【体力向上推進事業】	p12
30【食育推進事業】	p12

(2) 家庭・地域にかかる施策

家庭・地域の教育力の向上

31【家庭と地域の教育力充実事業】	p12
32【小学校すたーとブック・中学校入学準備冊子の発行】	p14
33【PTA活動支援事業】	p14

学校と地域との協働

34【すみだスクールサポートティーチャー活用事業】	p14
35【学校支援ネットワーク事業】	p14
36【防災教育の推進】	p15
37【学校運営連絡協議会運営事業】	p15

郷土の文化・歴史に関する教育の推進

38【すみだ郷土文化資料館やすみだ北斎美術館等を活用した教育】	p15
39【図書館による郷土の歴史・文化についての情報発信】	p16
40【文化財の調査・普及】	p17

(3) 教育の今日的課題

子どもの貧困対策の検討・実施

41【(仮称)子どもの貧困対策に関する取組方針の策定】	p18
-----------------------------	-----

「放課後子ども総合プラン」の推進

42【放課後子ども教室】	p18
43【学童クラブ】	p18

「子ども・子育て支援新制度」の推進

44【「子ども・子育て支援新制度」の推進】	p19
-----------------------	-----

オリンピック・パラリンピック教育の推進

45【オリンピック・パラリンピックに向けた取組】	p19
--------------------------	-----

教育施設の整備

46【総合教育センターの整備】	p19
47【学校施設維持管理事業】	p20
48【学校施設への環境配慮型設備等の導入】	p20
49【学校ICT化推進事業】	p20

(1) 区立学校にかかる施策  
学力の向上

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>1【学力向上「新すみだプラン」推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区学習状況調査の実施 実施日：4月27日 対象者：区立全小・中学校 小学校2年生～中学校3年生 教科：国、算【小2・3】 国、社、算（数）、理【小4～中1】 国、社、数、理、英【中2・3】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校低・中学年を中心に改善がみられ、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。《学力向上新3か年計画の目標の達成状況》 D・E層の割合 小学校：8/16教科 中学校：5/14教科 「読む能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」が全国以上の観点 小学校：12/15観点 中学校：5/9観点 「思考力・判断力・表現力」が全国以上の観点 小学校：10/16観点 中学校：3/14観点</li> </ul>	<p style="text-align: right;">すみだ教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒に対して、宿題の目的、家庭学習の具体的な仕方を伝えるよう、学校に指導・助言を行う。</li> <li>P T A 会長会又は教育広報誌によって、保護者に対して、宿題や学習習慣確立の重要性を伝えていく。</li> <li>社会科・理科の授業に役立つ情報等を「教育研究所ニュース」として毎月発行する。</li> </ul>
<p>2【授業改善プラン推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小・中学校における墨田区学習状況調査（区学力調査）を活用したP D C Aサイクルを実施した。 学力向上を図るための全体計画（学校）及び学力向上プラン（各教員）の作成（8月） 計画に基づいた取組の実施（9月～） 区学力調査結果による取組の効果検証（4月に調査を実施し、6月中旬に結果返却） 前年度の計画の見直し（7～8月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上プランの中で数値目標（D・E層の人数と減少人数）を設定し、教員の学力向上意識を高め、授業力向上につなげた。</li> <li>全小・中学校において、「学習ふりかえり期間」を設定し、学校I C Tにデータベース化した「ふりかえりシート」等を活用するなどの組織的な取組により、児童・生徒の知識の定着が図られた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">すみだ教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期末テストに加え、授業中に定着を確認する。宿題や単元末にふりかえりシートなども活用して確実な学習内容の定着を図るよう、各学校への指導・助言を行う。</li> <li>「指導のポイント」（主に社会科・理科）を質・量ともに更に充実し、学校I C Tの教材コンテンツに入れ、授業での活用を図る。</li> <li>国や都の学力調査などにある、発展的な内容の問題を教材コンテンツに入れ、C層以上の児童・生徒の更なる学力向上を図る。</li> </ul>
<p>3【「学習意欲の向上」に関する共同研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲測定尺度（質問紙）の開発 測定尺度を使った分析、学校へのフィードバック</li> <li>学習意欲向上に関する実践的な研究（小・中学校、東京未来大学と共同で実施）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同研究の結果から、自己肯定感と内発的動機づけを高める働きかけが学習意欲の向上に有効であることが検証できた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">すみだ教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲向上に有効な働きかけ等をより明確にするために実践的な研究（小・中学校、東京未来大学と共同で実施）を引き続き行う。また、その研究成果を全校で展開していく。</li> <li>学習意欲測定結果の分析方法をまとめた教員向け説明リーフレットを作成する。</li> </ul>

<p>4【習熟度別指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加配教員を加えた学級分割による算数・数学の習熟度別指導や、英語の少人数指導・習熟度別指導を実施し、児童・生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都が策定した「習熟度別指導ガイドライン」等に基づき、実施した。</li> <li>・習熟に応じた授業を展開することで、児童・生徒の学習状況に応じた指導が可能になり、つまり個別に対応できた。また、学力上位層については、発展的な学習を行うことが可能となり、双方とも意欲の向上が認められた。</li> <li>・教員同士が、本時のねらいや進捗状況等を確認する機会を設け、それについてクラス間で差がつかないように配慮した。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、東京都が策定した「習熟度別指導ガイドライン」等に基づき、実施する。</li> <li>・個々の学習状況に応じたきめ細かい指導、特に個別指導を重点的に行う。</li> <li>・サポート訪問や校内研修等の機会に、習熟度別指導の効果的な進め方を伝達していく。</li> </ul>
<p>5【教職員研修事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職層、年次、分掌、課題等に応じた研修会を実施 51種、183回（4月から3月まで）</li> <li>・初任者研修では、区内巡りを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の満足度は8割以上（研修後のアンケート調査による）</li> <li>・初任者研修では、区内巡りを4月4日に実施し、墨田区への理解を深めることができた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度は、教育指導向上研修会、主任教諭研修会について内容の改善を図る。</li> <li>・学校現場の要望を受け、特別支援教室巡回指導教員向け短期集中研修会を新設する。</li> <li>・校長会、副校長会等を活用して、研修会で学んだ内容を校内で伝達するよう周知徹底を図る。</li> <li>・特別支援教室専門員対象の研修会を新設する。</li> </ul>
<p>6【特色ある学校づくり等研究推進補助事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある学校づくり推進校 幼稚園1園、小学校8校、中学校2校 1月26日に研究成果発表会を実施し、成果発表を行うとともに報告書により誌上発表を行った。</li> <li>・研究協力校 1年次：幼稚園1園、小学校3校、中学校1校 誌上にて、成果発表 2年次：幼稚園1園、小学校3校、中学校1校 研究発表会実施（12月から2月）</li> <li>・墨田区教育研究奨励事業推進報告書の発行 250部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある学校づくり推進校及び研究協力校の研究では、新学習指導要領や都や区の施策・課題に対応した研究主題が多く、知見を深めることができた。</li> <li>・特色ある学校づくり推進校の成果発表会では、幼小中が幅広く研究の成果を確認できるよう、発表会の場を工夫し、校種を超えて、成果を還元できた。</li> <li>・研究協力校の各校の研究発表会では、授業を参観し具体的に研究成果を学ぶとともに、年間講師による講義を聴き、各研究の理解を深めることができた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマを精選し、都や区の課題に対応した研究を実施する。言問小学校で道徳、第三吾嬬小学校・第四吾嬬小学校で理科・生活科、中和小学校で社会科・生活科、桜堤中学校、第三吾嬬小学校でタブレット活用等進めていく。</li> <li>・東京都の指定校等（隅田小学校のプログラミング、豎川中学校の道徳）も、特色ある学校づくり推進校の成果発表で合わせて成果発表できるよう、発表会の運営について工夫する。</li> </ul>

<p><b>7【ICTを活用した教育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員用のタブレット端末や普通教室や特別教室に電子黒板を整備し、いつでもICTを活用できる環境を構築している。</li> <li>・授業で活用できる振り返りシートやICT活用事例ビデオ等、各教員が利用できるようにポータルサイトを構築、運用している。</li> <li>・ICTに係る研修を実施した。</li> <li>・各校のICT化推進計画に基づき、ICTを活用した授業公開を実施した。</li> <li>・指導主事の学校訪問により、ICTの活用状況についての確認</li> <li>・隅田小学校を研究協力校2年次として指定し、「分かる・できる・身に付く授業を目指して～ICTを活用した授業の工夫～」の支援を実施</li> <li>・「ふりかえりシート」及び「解説資料」、「指導のポイント」などの教材を開発し、ICTにデータベース化した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がいつでも資料を閲覧できる環境が整ったとともに、ICT活用事例等を校内研修の資料として活用し、活用事例の情報共有を図ることができた。</li> <li>・単に操作研修だけではなく、ICTと学校経営を結び付けて考える研修（管理職等を対象）や学校公開を通じ、校内全体でICTを活用する体制づくりを図ることができた。</li> <li>・隅田小学校が1月23日に研究発表会を実施。発達の段階に合わせたICT活用や、プログラミング教育等の授業を発表し、区内教員の知見を深めることができた。</li> <li>・授業や「学習ふりかえり期間」に「ふりかえりシート」を活用し、児童・生徒の学習内容の基礎・基本の定着に寄与した。</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><u>庶務課・指導室・すみだ教育研究所</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、コンテンツの充実に努め、ICT研修の実施、校内研修の支援等を行う。</li> <li>・タブレット端末を児童・生徒が活用する授業づくりの研究協力校を小・中学校各1校指定（三吾小、桜堤中）及び支援し、成果を区内学校へ還元する。</li> <li>・東京都のプログラミング教育推進指定校である隅田小学校の研究を支援し、成果を区内学校へ還元する。</li> <li>・引き続き、教材開発を行い、学校ICT環境を活用し、学校や教員の支援を行っていく。</li> </ul>
<p><b>8【幼保小中一貫教育推進事業（連携型）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画改定を行い「墨田区幼保小中一貫教育推進計画（平成30年度～平成34年度）」を作成した。</li> <li>・幼保小中連絡協議会を、各ブロックで年2回開催</li> <li>・幼保小中一貫教育フォーラムの開催 1/29（月）実施、参加者：182名</li> <li>・英語の取組を全ブロックで実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画改定を行い、全ブロックで効果的な取組が展開できるよう具体的に方向性を示すことができた。また、進捗管理事業を設定し、確実な計画の推進のための基盤を作ることができた。</li> <li>・学習指導面の取組として、全ブロックで英語に関する取組を実施することができた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><u>すみだ教育研究所</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に基づき、効果的な取組の全ブロック展開を推進していく。</li> <li>・幼稚園、保育園等の幼児の英語への興味につながるような活動を各ブロックで1回程度行う。</li> </ul>
<p><b>9【幼児教育の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育の充実に向けた取組の一環として、新幼稚園教育要領の周知及び内容の理解を図った。 新幼稚園教育要領説明会（東京都説明会）への参加（9月、各園1名悉皆） 幼稚園教育研修会（7月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幼稚園教育要領については、東京都説明会に各園1名以上の教員が参加し、内容を園内で伝達した。特に、幼稚園教育の終わりまでに育てほしい姿の10項目については、園内研修や区主催の研修会でも取り上げ、理解を深めることができた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><u>学務課・指導室</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育無償化は幼児保育の需要に影響があることを踏まえたうえで、区立幼稚園のあり方を検討していく。</li> <li>・幼稚園教育研修会において、幼児理解を深める実践的な方法を学ぶとともに、新しい指導要録の記載方法について学ぶことができ</li> </ul>

<p>幼稚園教諭対象体力向上研修会（8月） 園内研修（通年） 園長会、墨田区幼稚園教育研究会との連携 英語教育の充実</p> <p>・教育課程届出説明会で周知、各園の教育課程への位置付け</p>	<p>・幼稚園における英語教育の充実に関しては、教育課程届出説明会において説明し、各園の教育課程への位置付けを図った。</p>	<p>る内容とする。</p> <p>・幼稚園における英語教育の具体的な方法として、映像や絵本、ポスターなど、教材を効果的に活用した具体的な方法を提示していく。</p>
<p>10【すみだチャレンジ教室】</p> <p>・学力の定着に課題がある児童・生徒を対象に、補習教室（小学校は算数、中学校は数学・英語）を開催した。《希望者申込制》</p> <p>放課後10日間（三寺小は13日間）実施 桜堤中、言問小、三寺小、四吾小、梅若小、八広小（各校9名、四吾小のみ8名） 土曜日9日間実施 二葉小（18名） 曳舟小（31名） 八広小（24名） 夏休み3日間（小）、5日間（中）《拠点方式》 三寺小会場（29名） 横川小会場（14名） 区役所内会議室（28名）</p>	<p>・すみだチャレンジ教室を、「土曜日」、「夏休み」に加え、「放課後」にも実施することにより、参加校、参加児童・生徒数が増えた。</p> <p>・ほとんどの参加者がチャレンジ教室の事後テストで成績が伸びた。また、保護者向けに学習意欲喚起の講座を実施し、家庭学習の習慣づけに寄与した。</p>	<p style="text-align: right;">すみだ教育研究所</p> <p>・チャレンジ教室「放課後」の実施方法については、短時間で成果を出せる指導内容へと工夫を図っていく。</p> <p>・小学校の拠点方式での開催を見直し、夏季休業中に各小学校を会場として補習教室を実施することとする。（すみだスクールサポートティーチャーの人材を活用）</p>
<p>11【学校図書館の充実】</p> <p>・図書館を使った調べる学習コンクールの実施 区内全小・中学校が参加 学校図書館担当教員対象の研修会を実施 保護者向け説明会、親子で調べる学習応援講座の開催（4月）</p> <p>・学校図書館の活用 授業での活用 読書旬（週）間時のイベントの開催 本の展示方法改善、特設コーナーの設置、掲示物の充実等、環境整備の推進 学校図書館担当教諭対象の研修会を実施</p> <p>・小・中学校に学校司書要員を週2回（1日5時間）派遣し、学校図書館の活用推進を図った。</p>	<p>・平成29年度における参加者は5,539名（平成28年度は6,141名）参加出品数は5,508点（平成28年度は6,141点）である。その内の2%である110点を全国コンクールに出品し、優秀な成績を収めた。</p> <p>・110作品の内訳は、文部科学大臣賞1名（平成28年度1名）、国連生物多様性の10年日本委員会賞1名（平成28年度同等の賞1名、以上入賞）、優秀賞17名（平成28年度8名）、奨励賞28名（平成28年度30名）、佳作63名（平成28年度82名）である。確実に作品の質が上がっている。</p> <p>・小・中の学校図書館の状況を共有することができた。</p> <p>・調べる学習に取り組む児童や保護者への支援に</p>	<p style="text-align: right;">指導室・ひきふね図書館</p> <p>・できる限り多くの児童、生徒が参加できるように、校長会、副校長会、学校図書館担当教諭研修会等で周知を図る。</p> <p>・学校図書館担当教諭研修会にて、実施方法等を確実に周知する。</p> <p>・小中学校図書館司書要員と図書館司書との意見交換会を実施する。</p> <p>・調べる学習コンクールの個別相談会の会場を増やし、区立図書館3館で実施する。</p> <p>・掲示物や図書コーナーなど、各校の実践例に関しては、共有フォルダ等で画像データが共有できるようにする。</p> <p>・授業における学校図書館の効果的な活用について、専門的な知識を有する講師を招聘するとともに、ひきふね図書館とも連携し</p>

	<p>つながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒が利用しやすい環境を整えることができ、貸出冊数の増加につながった。</li> <li>・学校図書館担当教諭研修会では、外部講師を招き、図書館を有効活用する具体的な方法について講義、演習を行った。</li> <li>・学校司書要員が、学校図書館の書架整理や選書等に関する助言を行い、児童・生徒が利用しやすい環境整備を行った。</li> </ul>	<p>ながら研修会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校司書要員を学校図書館に派遣し、専門性を生かした支援を行う。また、蔵書の充実を図るとともに、学校図書館の適切な利用方法を周知し、徹底を図る。</li> </ul>																																																		
<p>12【学校と図書館の連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校への図書の貸出用に団体貸出セット（1セット約40冊程度）を作成</li> <li>・出張おはなし会 <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校 1校 24回</li> <li>中学校 1校 3回</li> </ul> </li> <li>・学校図書館読み聞かせボランティア養成講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>初級 2回 参加者 34人</li> <li>中級 2回 参加者 41人</li> </ul> </li> <li>・図書館見学 <ul style="list-style-type: none"> <li>実施回数 23回(12校)、参加人数 1,423人</li> </ul> </li> <li>・職場体験学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>実施回数 22回(17校)、参加人数 57人</li> </ul> </li> <li>・ブックリスト等の配布 <ul style="list-style-type: none"> <li>「ほんはともだち」「なつやすみほんはともだち」「としょかんへいこう」</li> </ul> </li> <li>・中学生高校生のための「POPコンテスト」の入賞作品等を各図書館等に掲示 <ul style="list-style-type: none"> <li>応募数 1,439点</li> </ul> </li> <li>・ひきふね図書館おもてなし課(メンバー15人) <ul style="list-style-type: none"> <li>区内在住、在学の中高生を対象に「ひきふね図書館おもてなし課」メンバーを募集し、ひきふね図書館でのイベント企画を3回(参加者67名)実施</li> </ul> </li> <li>・子ども図書館員チャレンジ講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者 小学生7人</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館における児童・生徒の一人当たりの年間貸出冊数 <table border="1" data-bbox="846 624 1290 767"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>31.6冊</td> <td>2.3冊</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>35.7冊</td> <td>2.5冊</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>38.9冊</td> <td>2.5冊</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>・0歳から15歳における区立図書館の利用者数 <table border="1" data-bbox="846 975 1442 1153"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">登録者</th> <th colspan="2">貸出者数</th> </tr> <tr> <th>人数</th> <th>前年度比</th> <th>人数</th> <th>前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>14,363</td> <td>-</td> <td>65,382</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>14,211</td> <td>98.9%</td> <td>65,549</td> <td>100.3%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>14,310</td> <td>100.7%</td> <td>72,384</td> <td>110.4%</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>・貸出図書 <table border="1" data-bbox="846 1185 1211 1364"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">貸出図書</th> </tr> <tr> <th>冊数</th> <th>前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>226,719</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>221,739</td> <td>97.8%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>238,493</td> <td>107.6%</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ul>		小学校	中学校	27年度	31.6冊	2.3冊	28年度	35.7冊	2.5冊	29年度	38.9冊	2.5冊		登録者		貸出者数		人数	前年度比	人数	前年度比	27年度	14,363	-	65,382	-	28年度	14,211	98.9%	65,549	100.3%	29年度	14,310	100.7%	72,384	110.4%		貸出図書		冊数	前年度比	27年度	226,719	-	28年度	221,739	97.8%	29年度	238,493	107.6%	<p style="text-align: center;">指導室・ひきふね図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区立図書館からの学校司書要員派遣による運営支援を行い、児童・生徒への読書活動の推進や教科学習の支援に努める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[小学校]委託業者スタッフによる支援 週2日(5時間/1日)</li> <li>[中学校]ひきふね図書館員による支援 週2日(5時間/1日)</li> </ul> </li> <li>・児童の図書館見学や生徒の職場体験学習の受入れを行い、図書館への理解を高める。</li> <li>・ブックリスト等を配布し、図書館の利用促進につなげる。</li> <li>・図書館から学校への「団体貸出」を行い、子どもたちが多くの図書に接する機会を増やす。</li> <li>・学校図書館の授業での活用を促進するため、参考図書リストの提供や、レファレンスを充実させる。</li> <li>・ボランティアの育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>区立図書館において、学校図書館読み聞かせボランティア講座等を実施し、その育成に努める。</li> </ul> </li> </ul>
	小学校	中学校																																																		
27年度	31.6冊	2.3冊																																																		
28年度	35.7冊	2.5冊																																																		
29年度	38.9冊	2.5冊																																																		
	登録者		貸出者数																																																	
	人数	前年度比	人数	前年度比																																																
27年度	14,363	-	65,382	-																																																
28年度	14,211	98.9%	65,549	100.3%																																																
29年度	14,310	100.7%	72,384	110.4%																																																
	貸出図書																																																			
	冊数	前年度比																																																		
27年度	226,719	-																																																		
28年度	221,739	97.8%																																																		
29年度	238,493	107.6%																																																		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーンズ情報誌「10代のための本棚」配布 中学生全学年に年4回発行</li> <li>・中学校図書館で区立図書館の本が借りられる 「学校連携予約」貸出(6校136冊)</li> <li>・小中学校図書館司書要員と図書館司書との意見 交換会の開催(8月)</li> <li>・調べる学習個別相談会の開催(7・8月)</li> </ul>		
<p>13【校務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムを活用し、校務の情報化を推 進している。</li> <li>・通知表の印刷方法の改善を行った。 (特別の教科道徳が教科化されることに伴い、 平成30年度以降の準備として独自の印刷シス テムを構築した。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士の情報共有が可能になったほか、児 童・生徒のデータを保健・成績等多くの場面で 活用でき、効率化が図られた。</li> <li>・様式の変更等を柔軟に行い、大幅な経費削減が 可能となった。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">庶務課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ICTネットワークシステムの更新に 合わせ、次期校務支援システム等の選定を 行う。</li> </ul>
<p>14【学校(園)における第三者評価の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園2園、小学校6校、中学校3校に対して、 第三者評価を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象校の自己評価結果や学校経営計画の中間評 価、授業視察、ヒアリング等を通して総合的に 評価を行った。評価結果は、対象校の学校運営 の改善に生かせるよう1月上旬までに通知し、 評価に関する校長所見を作成することにより、 評価を受けての改善策等を明確にした。【実施 状況100%】</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度は、幼稚園1園、小学校6校、 中学校2校で第三者評価を実施する。</li> <li>・1月に評価結果を各学校に通知し、2月中 旬までに評価結果を受けての校長所見をよ り一層精度の高いものとして作成すること で改善の方向性を明確にしていく。</li> </ul>

### グローバル化に対応した教育の推進

平成29年度の事業の実施状況	成果	平成30年度以降の取組
<p>15【小学校英語の教科化への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育推進リーダーの活用 英語活動研修会の開催 年6回(4・5・6・8・9・11月)</li> <li>東京都外国語独自教材の活用 教員の英語力向上 1年次から5年次までの教員対象に授業視 察25校 校内研修 6校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読むこと、書くことの指導について段階的に行 うことを示したことにより、教員は11年間を 見通した指導内容についての理解が深まった。</li> <li>・若手教員中心に授業を参観し、推進リーダーが 助言することで、自分から授業を組み立てるよ うになってきた。</li> <li>・学校訪問後のアンケート調査では、「NTと連 携した授業展開が分かった」「めあてに沿った アクティビティの種類が増えた」と回答した教</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期から英語に触れ、慣れる活動を幼保小 中一貫教育の中で引き続き取り組んでいく。</li> <li>・児童の発達の段階に応じた「読む」、「話す」 「聞く」、「書く」の定着を引き続き図ってい く。</li> <li>・英語教科化の完全実施に向けて、年間の総時 数を確保するための年間指導計画案を提示 していく。</li> <li>・教員の発話技能を補うものとして、音声教材</li> </ul>

	員が約 8 割と概ね満足できる結果となった。	や国のインターネット配信による動画等の活用を推奨していく。
16【NT（ネイティブティーチャー）による効果的な授業の展開】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校中学年の外国語活動開始に向けて、児童が英語を母語とする人の発音等に触れる機会を設定するとともに、児童が NT と進んでコミュニケーションを図ることができた。</li> <li>・英語活動研修では、「NT の発音を聞いて児童は意欲的に取り組んでいるか。」という質問に 96.8% の教員が「そう思う。」と回答した。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校高学年の NT の配置時間数を 23 時間から 35 時間に増加させる。学級担任が指導の中心となりながら、NT を活用した「話す」「聞く」の学習と「読む」「書く」の学習を効果的に組み合わせることで、全観点の学力向上につなげていく。</li> <li>・東京都教育委員会が補助連携して民間が運営するオールイングリッシュの体験型英語学習施設「Tokyo Global Gateway」の事前学習において、NT と中学生が課題を解決する場を設定していく。</li> </ul>
17【中学生海外派遣】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外派遣後「現地校の生徒やホストファミリーに自分から進んで発言できたか。」の質問に全員が発言できたと回答。「海外派遣への参加は、その後の学校生活に影響はあったか。」の質問に 75% の生徒が大いにいると回答した。</li> <li>・ICT 機器を活用して、音声テレビ電話で交流し、現地校の授業を区内の中学生が体験できる環境を設定した。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も中学生の国際感覚を養うことを視野に計画的に中学生海外派遣を行っていく。</li> <li>・他課とも十分連携を図りながら派遣後のボランティア活動を推進していく。</li> <li>・2 学年生徒を対象とした TGG（英語学習施設）体験を実施し、すべての生徒に英語活用機会を設定する。</li> </ul>

### 特別支援教育の充実

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
18【特別支援教育推進事業】		学務課・指導室
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科医による固定学級(知的障害)での療育相談(年 13 回)</li> <li>・特別支援教育に関する研修会の実施 6 種類の研修会、年 13 回(4 月から 1 月まで)</li> <li>・各職層研修、年次研修等で特別支援教育について講義・演習を実施 年 7 回(7 月から 3 月まで)</li> <li>1、2、3 年次教諭、主任教諭、主幹教諭、S</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童・生徒の授業や休み時間中の様子や掲示されている作品等を観察してもらい、助言を受け個別の指導等に生かしていくことができた。</li> <li>・特別支援教育に関する研修会や、各職層・年次研修で特別支援教育に関する研修を実施し、特別支援教育の意義や目的、特別な支援を要する幼児・児童・生徒への対応、障害の特性について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き精神科医を派遣し、専門的観点から助言を受け指導に生かす。</li> <li>・昨年度の研修会後のアンケート等を活用し、学校現場のニーズに合った、各研修会の内容の精選を図る。コーディネーター研修会では墨東特別支援学校の見学を、特別支援教室研修会では経験年数別の研修会を実施する。</li> <li>・巡回相談を各校最低 1 回の実施を義務付け、</li> </ul>

<p>C、教育指導向上研修会にて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に係る巡回相談の実施 7園29校で実施、年66回</li> <li>・特別支援教育検討委員会を実施 年3回(6・9・3月)</li> <li>・特別支援教室に関する説明会の実施 教員向け(5・9月に2回) 保護者向け(9月に2回)</li> <li>・特別支援教室ブロック別情報交換会の実施 (2・12月)</li> <li>・特別支援教室担任連絡会・校長会の実施(2月)</li> </ul>	<p>て、特別支援教室について等、講義・演習を行い、理解を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談での専門家による助言・指導を受け、特別支援を要する幼児・児童・生徒への対応について、理解を深めた。また、校長会、副校長会、各種研修で巡回相談の周知を徹底したため、昨年度より実施校が7校(園)、回数で4回増加した。</li> <li>・検討委員会で各校での協議で、各校の課題が明らかとなり、次年度に向け、対応策を施すことができた。</li> <li>・特別支援教室の説明会を実施し、保護者、教員の特別支援教室に対する理解が深まった。</li> <li>・ブロック別情報交換会、担任連絡会、校長会の開催を通して情報を共有し、特別支援教室の課題を明らかにして、次年度に向け対応策を施すことができた。</li> </ul>	<p>全園・全校での実施を実現するとともに、現場での具体的な指導を通して、各校の教員の意識改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の特別支援教室整備に向けた作業部会を立ち上げ、検討会を年5回実施し、検討委員会に報告する。</li> <li>・検討委員会や担任会等であがった課題を受け、特別支援教室巡回指導教員向け短期集中研修会(年5回)、特別支援教室拠点校校長会(年2回)、特別支援教室固定学級校長会(年2回)を実施する。</li> </ul>
<p>19【特別支援教室の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都特別支援教育推進計画第3次実施計画を踏まえ、特別支援教室導入や整備状況について、庁内関係職員、関係校長を委員とする特別支援教育検討委員会を開催した。小学校については、10校の整備を行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度から全小学校に特別支援教室を設置し運用を開始した。</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><u>学務課</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍校での特別支援教室利用までの検討状況などを把握して措置会の資料とするなど、入退級にかかる手続き等の適正化を図る。</li> <li>・平成33年度からは全中学校に特別支援教室を設置するため、都のガイドライン等を参考に作業部会等で検討し、平成31年度からモデル校での実施を目指す。</li> </ul>

### 体験学習を通じた教育の推進

平成29年度の事業の実施状況	成果	平成30年度以降の取組
<p>20【リーダー育成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サブ・リーダー講習会(夏期・冬期)、ジュニア・リーダー研修会(年間9回、宿泊研修(春期・冬期)、キャンプ)を開催し、子ども会活動やその他各種少年団体でのグループ活動におけるリーダーの育成を行った。</li> <li>サブ・リーダー受講生：119名(前年度112名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の枠を越えた横のつながりや、異年齢交流による縦のつながりを強化するとともに、ジュニア・リーダーの派遣により、子どもと地域のつながりを強化することができた。</li> <li>・地域の子ども会においては、ボランティア</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><u>地域教育支援課</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・墨田区ジュニア・リーダー研修会の修了生を中心に結成された「すみだ青年協力会」をはじめ、墨田区少年団体連合会等の青少年関係団体と連携を図りながら、活用場の充実に努める。</li> </ul>

ジュニア・リーダー研修生：61名(前年度57名)  
 ジュニア・リーダー派遣依頼：29件(前年度30件)

として活躍する人材を確保できた。

### いじめの防止

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>21【人権教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育推進委員会の開催 年5回(5・6・8・11・1月) 人権尊重教育推進校校長・研究推進担当・事務局で組織</li> <li>人権教育推進連絡協議会の開催 年3回(6・9・10月) 「性同一性障害」「性的指向」参加89名 「インターネットによる人権侵害」参加91名 「同和問題」参加119名</li> <li>東京都教育委員会人権尊重教育推進校の指定3校(八広小、梅若小、吾二中) 人権教育実践事例集の発行 3月発行 300部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学校(園)が、地域の状況や子供の実態に応じた人権教育を推進するため、人権教育推進委員会を中心に人権教育推進上の課題解決に向けた認識の共有化を図った。</li> <li>全学校(園)1名の人権教育担当を中心に人権課題に関わる講演や協議を行った。特に、人権課題「性同一性障害者」「性的指向」で、当事者を講師とした講演を行い、人権課題への理解が深まった。</li> <li>人権教育に関する授業実践を行い、本区の人権教育の一層の推進に貢献した。吾二中が12月に研究発表会を実施した。人権尊重教育推進校3校の実践をまとめた事例集を発行した。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育推進連絡協議会では、引き続き様々な人権課題について取り上げるとともに、人権一般についての理解やフィールドワーク等の実施形態の工夫により、理解を深めていく。</li> <li>引き続き「路上生活者への偏見・差別を解消するための特別授業」を全小・中学校で実施する。</li> <li>人権尊重教育推進校3校の合同実践報告会を実施し、各校の実践を各学校(園)に広めていく。</li> </ul>
<p>22【道徳の教科化への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育推進教師連絡会の開催 年3回(5・7・2月)</li> <li>初任者研修会にて道徳研修を実施</li> <li>東京都教育委員会道徳教育推進拠点校の指定2校(言問小、豎川中) 校内研究授業の公開 研究成果のリーフレットの配布(豎川中) 成果発表会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育推進教師連絡会にて、「教科化の意義」「教科化に向けた推進教師の役割」「評価」「授業づくり」「採択教科書」について、講義・演習を行い、「特別の教科 道徳」についての理解が深まった。</li> <li>初任者研修会にて、「考え議論する道徳」に向けた指導案づくりを実施し、「特別の教科 道徳」についての理解が深まった。</li> <li>拠点校の授業公開やリーフレット配布を通して、道徳科の授業づくりや評価について啓発を図った。また、道徳推進教師連絡会にて成果発表会の場を設け、拠点校の研究成果を還元し、「特別の教科 道徳」についての理解が深まった。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校では、今年度からの教科化を踏まえ、各校で還元可能な具体的で実践的な内容の連絡会を実施する(通知票の記載の方法、「評価」の具体的な事例、教科書の使い方等)。</li> <li>中学校では、翌年度からの教科化実施を踏まえ、都の拠点校である豎川中学校の授業研究等を公開するとともに、研究成果を還元する。</li> <li>特色ある学校づくり推進校に、昨年度、都の拠点校であった言問小学校を指定し、道徳の研究を支援し、成果を各学校に還元する。</li> </ul>

<p>23【いじめの問題への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ対策担当者連絡会の開催（年3回）</li> <li>・全小・中学校、児童・生徒対象のアンケート調査を年3回実施</li> <li>・いじめに関する授業の実施（年3回） うち1回は、いじめ防止授業地域公開講座を開催</li> <li>・墨田区いじめ防止基本方針、墨田区教育委員会いじめ防止プログラムを改定した。</li> <li>・新たにいじめ対応マニュアルを作成し、いじめの認知及びいじめへの組織的対応について各学校に周知した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ対策担当者連絡会において、「事例を基にした対応研修」、「各校の事例検討会」、「校内研修の在り方」等についての理解を深めた。</li> <li>・いじめの重大事態発生は、0件である。</li> <li>・いじめに対する学校における組織的対応ができるようになってきている。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・墨田区いじめ防止基本方針、墨田区教育委員会いじめ防止プログラム、いじめ対応マニュアルの周知及び内容の理解促進</li> <li>・組織的対応に向けた校内研修の充実</li> <li>・関係諸機関との連携強化</li> </ul>
<p>24【SNS等の適切な使い方の啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「SNS学校ルール」、「SNS家庭ルール」の見直し</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> <li>・インターネット等を通じて行われるいじめの防止授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に策定した同ルールの見直しを行うとともに、年度末に振り返りを行い、成果と課題を確認した。</li> <li>・SNS東京ノートを使用した情報モラル教育を各学校において推進した。</li> <li>・墨田川高校の第1学年生徒が区内3小学校の学校に出向き、「スマホミーティング」を実施した。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導主任研修会、いじめ対策担当者連絡会等での、情報モラル教育に関する教員研修の実施</li> <li>・情報モラル教育の充実</li> <li>・保護者への啓発</li> </ul>

### 学校不適應の解消

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>25【不登校問題への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策担当者連絡会の開催（年3回）</li> <li>・子供の未来応援会[不登校児童・生徒の保護者向けの相談会]の実施（年2回）</li> <li>・サポート学級、ステップ学級での学校復帰を目指した支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未然防止、早期発見、早期対応など各時期に連絡会を開催したことにより、不登校対策についての理解が深まった。</li> <li>・子供の未来応援会第1回は墨田区の不登校対策の周知、2回は進路等について周知し適応指導教室につなげた。</li> <li>・サポート学級、ステップ学級とも体験学習を充実し、学校復帰等を目指すことができた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策基本方針の策定</li> <li>・不登校対応校内体制の整備</li> <li>・教員の意識啓発・対応力の向上</li> <li>・不登校傾向の確実な把握</li> <li>・小・中学校の連携強化</li> <li>・関係機関との連携強化</li> <li>・適応支援・指導の機能強化</li> </ul>

<p>26【帰国・外国人児童・生徒への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰国・外国人児童を対象に通訳派遣を行った。</li> <li>・梅若小学校日本語通級指導教室やすみだ国際学習センターで基礎的な日本語指導を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳派遣だけではなく、児童の日本語力の定着を図るためのシートを作成し、中学校へ引き継ぎ資料の参考とした。</li> <li>・日本語通級指導教室やすみだ国際学習センターに通っている期間は、在籍校と連携を図り、児童・生徒の実態を連絡ノートで共有できた。国際学習センターの指導員が年間5回以上学校訪問し、当該生徒の学習定着度や終室に向けて協議できた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な言語に対応する通訳者が不足しており、ホームページ等で広く募集していく。</li> <li>・外国人児童・生徒指導担当者研修会で「国際学習センターの手引き」を活用し、学級担任や担当者の役割を明確にする。</li> </ul>
<p>27【教育相談推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小・中学校、子育て支援総合センター、各保健センター等の関係機関と連携を図りながら、児童・生徒等の教育上の悩みの解決に向けた相談業務を実施した。</li> <li>・登録件数：169件(前年度130件) 内訳：繰越登録件数88件 29年度登録件数81件</li> <li>・電話相談件数：66件(前年度63件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーや関係機関と連携を図りながら、解決等相談の終結に結びつけることができた。</li> <li>・終結件数：60件(前年度42件)</li> <li>・終結率：35.5%(前年度32.3%)</li> <li>・翌年度繰越件数：109件</li> </ul>	<p style="text-align: right;">すみだ教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会等を実施するなど、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図りながら、より効率的・効果的に相談業務を実施し、悩みを抱える児童等に対応していく。</li> </ul>
<p>28【スクールサポートセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーを全小・中学校に配置した。</li> <li>区費SC 小学校19校 中学校10校 年280時間</li> <li>都費SC 小学校25校 中学校10校 年35日</li> <li>・スクールソーシャルワーカーを3名配置した。</li> <li>・不登校となっている児童・生徒の居場所としてサポート学級を設置、学習活動等の場所としてステップ学級を設置し、当該児童・生徒を受け入れ個別指導を行った。</li> <li>サポート学級入級者 28名</li> <li>ステップ学級入級者 32名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校規模に応じてスクールカウンセラーを配置したことにより、児童・生徒及び保護者が気軽に相談室を訪れ、適時適切に相談活動を行うことができた。</li> <li>・不登校になっているが、学校や関係機関とのつながりが薄い児童・生徒に対し、スクールソーシャルワーカーが家庭訪問等を行い、関係機関につなげることができるなど好転した事例が見られた。</li> <li>・サポート学級・ステップ学級の通級児童・生徒の学校復帰 サポート学級 8名 ステップ学級 27名</li> </ul>	<p style="text-align: right;">指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の教育相談体制の充実を図る。</li> <li>・引き続きこれまでの実績を踏まえた取組を推進するとともに、課題のある児童・生徒に関係機関と連携したよりきめ細やかな対応を図る。</li> <li>・関係機関との連携強化</li> <li>・適応支援・指導の機能強化</li> </ul>

## 体力の向上

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p><b>29【体力向上推進事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストを小・中学校の全児童・生徒に実施し、区としての全体の体力の傾向を把握する。</li> <li>・体力向上プロジェクト検討委員会にて、区全体の体力向上に関する共通課題、課題改善に向けて取組方針を検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校の全児童・生徒に体力テストを実施する体制が定着した。各学校では、結果分析を踏まえた取組を行い、体力向上が図られつつある。</li> <li>・各校で、体力向上に向けた体育授業の充実、日常的に取り組める体力向上策の見直し、改善を行った。</li> <li>・小学校6年女子以外、全ての学年において、体力合計点が、東京都の平均値を上回っている。</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><b>指導室</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上プロジェクト検討委員会にて、課題の体力を向上する運動遊び及び補強運動を引き続き検討し、授業等で活用できる動画を作成していく。</li> <li>・学校の体力の課題に応じた特色ある取組「一校一取組」に加えて、小学校においては「一学級一実践」の取組を継続的にを行い、その成果を11月に検証することで実態をつかむ。</li> </ul>
<p><b>30【食育推進事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統や文化、季節感、地域社会、地球環境及び異文化への理解を促進させ、合わせて食事面からの体力向上及び作法の習得に向けた取り組みに対する支援を行っている。 (食育推進交付金) 小・中全校で実施 1人3食相当を交付 (ふれあい給食) 小学校11校(12回) 中学校5校で実施</li> <li>・家庭でも食についての理解を深めてもらうために、学校給食で人気のメニューを実際に調理する「親子料理教室」を夏休みに2回開催した。</li> <li>・ふだん給食等で食べている食材の生産・加工の工場を見学し、食を大切に作る心を育てるために「食育学習見学会」を夏休みに1回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食文化や伝統について理解を深めてもらうことができた。また、夏休みの行事では、日頃、食事を提供している親等への感謝の気持ちを育み、親子のふれあいと参加者相互の交流を図る機会とすることもできた。</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><b>学務課</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業展開により、食育の一層の推進を図る。</li> <li>・引き続き、親子の事業参加を促し、食育に対する理解を深める契機とするとともに、親子のふれあいと参加者相互の交流を深める場とする。</li> </ul>

## (2) 家庭・地域にかかる施策 家庭・地域の教育力の向上

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p><b>31【家庭と地域の教育力充実事業】</b></p> <p>保育園・幼稚園の保護者会、小学校PTA等が家庭教育学級補助金交付を受け家庭教育学級を開催した。</p>	<p>家庭教育学級の開催により地域の自主的な子育て学習に寄与した。</p>	<p style="text-align: right;"><b>地域教育支援課</b></p> <p>より多くの団体が気軽に申請・参加できるよう、引き続き、区報等への掲載や保育園・幼稚園、小・中学校PTA団体等へ案内を周知</p>

家庭教育学級補助金交付：11 団体 660 人  
(前年度 11 団体 727 人)

子育てに関する情報等を掲載した「子育て通信」を季刊(4 回)発行し、幼稚園、小学校 1~3 年の保護者に配布・区 HP への掲載を行った。

子育て通信：年 4 回、合計 24,000 部発行  
(前年度 24,000 部発行)

幼稚園、保育園、小学校 P T A と連携し、園の保護者や小学校の保護者、地域の一般区民を対象に子どもの生活習慣改善や学習習慣の修得を目的とした講座を開催した。

なお、平成 29 年度は、モデル事業として小学校 P T A と連携し小学校を会場に家庭教育支援講座を実施した。

家庭教育支援講座：12 回実施、参加者 238 名(幼稚園 4 園 124 名、保育園 6 園 98 名、小学校 2 校 16 名) 前年度：10 回実施、参加者 303 名(幼稚園 3 園 141 名、保育園 7 園 162 名)

親子で協力する実験を行うなど、学校外での学びの場や親子交流の機会を提供するため、身の回りにある様々な科学をテーマに、親子参加型のワークショップを開催した。

親子で楽しむサイエンス教室：3 回実施、参加者 100 名(保護者 50 名(うち男性保護者 30 名)、子ども 50 名) 前年度：3 回実施、参加者 122 名(保護者 61 名(うち男性保護者 28 名)、子ども 61 名)

青少年育成委員、青少年委員及び P T A など地域の指導者を中心に地域における指導力・相談力向上と家庭教育の重要性等をテーマに講演会を開催した。

地域育成者講習会 2 回実施 117 名

「すみだの子どもの未来を考えよう」53 名

「たくましく育つために子どもたちに体験させたい小さな挑戦について」64 名

「子育て通信」の発行により保護者等への有益な情報提供ができた。

幼稚園及び保育園と連携することにより、園での年間テーマである読み聞かせの講座を実施するなど地域のニーズに沿った内容で講座を開催することができ、生活習慣の改善や家庭教育の習慣づけに寄与した。

親子で楽しむサイエンス教室を開催し、親子で創意工夫・意見交換することにより、子どもたちが自ら課題を見つけ、考え、学ぶ力をつけることの動機づけに寄与した。

青少年育成委員、青少年委員及び P T A など地域の指導者を対象とした講演会を開催し、指導力や相談力の向上に寄与した。

し、申請団体の増加を図る。

「子育て通信」の季刊発行及び HP への掲載等を継続し、区民全体へ家庭教育の啓発を行うとともに、更なる周知を図る。

保護者や地域のニーズに応えられるテーマの新設に向け、講師の充実を図り、生活力・学力向上に資する講座を展開する。

開催時期・時間等を含め、男性保護者や親子で参加・受講しやすい講座内容の企画を拡充する。

多くの育成者に参加を促すことが必要となるので、子どもたちを取り巻く環境等の課題に即したタイムリーなテーマを設定し、幅広く周知する。

(前年度 1 回実施 112 名)		
<p>32【小学校すたーとブック・中学校入学準備冊子の発行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校すたーとブックの作成 次年度に小学校へ入学する区内幼稚園・保育園等の 5 歳児とその保護者を対象に家庭教育啓発の冊子を配付</li> <li>・中学校入学プレブックの作成 次年度に中学校へ入学する区立小学校 6 年生を対象に進学準備冊子をに配付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校すたーとブックについては、幼稚園教育要領の改訂等に合わせて内容を刷新した。また、ユニバーサルデザインの観点から、平易な言葉で表現した。</li> <li>・中学校入学プレブックについては、中学校の教員や保護者の意見を取り入れ、生徒にとって取り組みやすい内容にすることができた。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><u>すみだ教育研究所</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校すたーとブックについては、幼稚園や保育園等、小学校と連携しながら、家庭での活用について検討していく。また、中学校入学プレブックについては、入学したばかりの 1 年生を対象とした活用方法を中学校長会と検討していく。</li> </ul>
<p>33【PTA 活動支援事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合 P T A に対して補助金を交付するとともに、連合 P T A が主催する研修大会等への支援を行った。 墨田区立小学校 P T A 協議会研修大会 「子どもたちの自尊感情をはぐくむために」参加者：400 名（前年度：410 名） 墨田区立中学校 P T A 連合会研修大会 「熱中症についての注意喚起、予防策について」参加者：240 名（前年度：350 名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の交付や研修大会等への支援を行うことで、P T A 活動を円滑にするとともにその充実を図った。</li> <li>・一方で、連合 P T A が主催する研修大会への参加者数が昨年度より減少した。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><u>地域教育支援課</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合 P T A に対する活動支援を継続する。また、連合 P T A と連携し、研修大会等の参加者増に向けた取組について検討する。</li> </ul>

### 学校と地域との協働

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>34【すみだスクールサポートティーチャー活用事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すみだスクールサポートティーチャー 学力向上支援サポーター全校配置（35 校） 授業中等における教育支援、放課後補習 一貫教育推進員 34 校配置 幼保小中一貫教育推進に係る事務補助等 学生ボランティア 活動実人員（11 名） 対象：教員を目指す大学生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上支援サポーターを活用した放課後学習等を全ての学校が実施し、学力の定着に課題のある児童・生徒の学力向上に寄与できた。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><u>すみだ教育研究所</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のニーズに応えられるよう、登録者数を増やす必要がある。そのため、引き続き千葉大学をはじめ、近隣大学に出向き、学生の登録者の増加を目指していく。</li> </ul>
<p>35【学校支援ネットワーク事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を活用した出前授業による学校支援活動を実施している。</li> <li>・出前授業メニューの作成にあたっては、学校ニーズを踏まえるとともに、学習指導要領の重点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境、福祉、文化など様々な分野の専門家や地域のボランティアを外部講師として派遣し、社会の変化に対応する新たな学びの体験をはじめ、キャリア教育支援による職業観の醸成など</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><u>地域教育支援課</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の一部を、教育 NPO 法人に継続して委託連携することにより、事業の安定的・継続的な推進を図る。</li> </ul>

<p>事項に焦点を合わせることにした。また、積極的に地域の協力団体等を開拓し、より一層地域の特色を生かした魅力あるものとして実施してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師として、延べ 1,228 人(前年度 1,286 人)を、延べ 342 校(前年度 355 校)に派遣し、授業回数 521 回(前年度 581 回)の活動実績となった。</li> </ul>	<p>教育内容の充実・向上に資した。</p>	
<p><b>36【防災教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災等の教訓を踏まえた防災教育の推進</li> <li>地域の防災組織等と連携した体験的な訓練の実施</li> <li>生活指導主任連絡会において、避難訓練等の防災計画の見直しの指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した防災訓練の実施 小学校...18校、中学校...7校</li> <li>防災教育副読本「地震と安全」、「防災ノート」、「3・11を忘れない」の活用 小学校...25校、中学校...10校</li> <li>豎川中学校において、防災給食の実施</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><u>庶務課・指導室</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校に地域参加型の避難訓練実施を働きかけ、実施を促していく。</li> <li>生活指導主任連絡会等で、防災計画の見直しの必要性を伝え、見直しの徹底を図る。</li> <li>緊急時の連絡体制を策定し、それに基づいた訓練を行うように指示する。</li> <li>中学1年生を対象とした、救急救命講習を実施する。</li> </ul>
<p><b>37【学校運営連絡協議会運営事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学校(園)で年間3回以上学校運営連絡協議会を実施し、学校運営等に関する協議を行った。</li> <li>都型コミュニティ・スクールの要件に沿った移行を目指し、要綱の改正等、準備を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動についての協議を行い、様々な意見をもとに教育活動の改善を図ることができた。【実施状況 100%】</li> <li>学校関係者評価を行い、学校評価結果を公表している。【実施状況 100%】</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><u>指導室</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度より学校運営連絡協議会の名称は変更せず、都型コミュニティ・スクールとしての運営を行い、学校の教育活動に関する様々な協議を行うとともに地域学校協働活動を推進していく。</li> </ul>

### 郷土の文化・歴史に関する教育の推進

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p><b>38【すみだ郷土文化資料館やすみだ北斎美術館等を活用した教育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北斎プロジェクト検討委員会を開催し、副読本の作成に向け、検討を行った。作業部会を開催し、すみだ北斎美術館と連携し、副読本の作成を行った。</li> <li>各小・中学校、各教科と関連しすみだ北斎美術館を活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校低学年用、高学年用、中学生用の3部構成で副読本を作成、各校へ配布した。</li> <li>すみだ北斎美術館の近隣の学校については、学芸員による出前授業を実施してから、見学を行うなど充実が図られている。</li> </ul>	<p style="text-align: right;"><u>指導室・地域教育支援課</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>副読本を活用した実践例の作成</li> <li>すみだ北斎美術館見学の工夫の検討</li> </ul>

<p>39【図書館による郷土の歴史・文化についての情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館・美術館等との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>すみだ文化講座の実施（6回）</li> <li>主な実施講座：連携機関等</li> <li>ア)国立歴史民俗博物館：「勝海舟と明治の旧幕臣」（ひきふね 8/13）</li> <li>イ)すみだ北斎美術館：「北斎とその仲間たち」（ひきふね 10/21）</li> <li>ウ)区内企業：「下町 町工場の挑戦」（緑 11/19）</li> <li>エ)区内在住作家：「塚本やすし絵本ライブ」（八広 11/26）</li> <li>オ)徳川林政史研究所：「赤穂事件の因縁ばなし」（ひきふね 12/10）</li> <li>カ)古写真研究家：「古写真が伝える明治期の墨田」（ひきふね 3/4）</li> </ul> </li> <li>地域に関する資料の収集・整理・保存及び質問に対する回答（54件）</li> <li>・情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>墨田区立図書館・コミュニティ会館図書室ニュース（主な記事）</li> <li>ア)6月号：すみだゆかりの作家伊藤左千夫代表作『野菊の墓』を原作とした視聴覚資料の紹介</li> <li>イ)8月号：すみだトリフォニーホール開館20周年（図書館所蔵のCD紹介）</li> <li>ウ)9月号：「墨田区政70周年」墨田区にちなんだ資料紹介</li> </ul> </li> <li>図書館での郷土の歴史・文化に関する特集展示（主な展示）</li> <li>ア)墨田区を走る鉄道路線を知る（八広）</li> <li>イ)「フウガドールすみだ」写真展（ひきふね）</li> <li>ウ)誕生150年 幸田露伴（ひきふね）</li> <li>エ)熱いぞ！両国 大相撲九州場所（緑）</li> </ul>	<p>・すみだ文化講座の実施にあたり、博物館や美術館、地域の方と連携しながら実施した。（計6回実施、301名参加）</p> <p>・郷土の歴史・文化の情報について、区立図書館内で図書の特集展示や区立図書館ニュースの紹介記事などで発信した。また、図書館ホームページ等からも情報発信した。</p>	<p style="text-align: right;">ひきふね図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に関する資料については、収集及び整理等を進めていく中で、職員の更なる専門知識等の向上に努めていく。</li> <li>・すみだ文化講座などのイベントを利用して、子どもからお年寄りまで誰もが興味を持てるような郷土の歴史・文化の情報を発信していく。</li> </ul>
---	--	---

<p>わ) 70年のあゆみ - 墨田・日本・世界 - (ひきふね)</p>		
<p>40【文化財の調査・普及】          区内に存する有形・無形文化財の調査、指定・登録、埋蔵文化財の発掘調査を行い、記録・保存を図った。          ・文化財登録件数 144件(前年度142件)          [29年度目標値：文化財登録件数144件]          新規登録2件、登録解除1件          ・埋蔵文化財本発掘調査 3件(前年度2件)          区民への歴史・文化の普及啓発を図るため、史跡説明板の設置や史跡めぐり、文化財の特別見学会、講座、展示、刊行物の作成等を実施した。          ・史跡めぐり 1回(延参加者数19名)          ・特別見学会 1回(延参加者数22名)          照田家 満足度：大変良い・良い100.0%          ・史跡説明板 新設1基、建替2基、英文設置2基          ・すみだゆかりの展示 2回          「法泉寺の文化財」 満足度：大変良い・良い84.0%          「水神さんの宝物～矢掛弓雄と「隅田川八景」～」満足度：大変良い・良い96.0%          ・体験講座「おとなの伝統工芸体験」          江戸文字(参加者9名)・江戸切子(参加者15名)          ・刊行物          『墨田区文化財叢書第七集 三圍神社の絵馬・扁額』500部          ・文化財リーフレット          『法泉寺の文化財』1,000部          『水神さんの宝物～矢掛弓雄と「隅田川八景』1,000部</p>	<p>区内に存する歴史的・芸術的に価値の高い文化財を登録・指定することで、文化財の保護及び文化財管理者への支援を行うことができた。          講演会及び史跡めぐりの実施、史跡説明板設置等の普及事業により、すみだの文化財、歴史・地誌を広く周知することができた。</p>	<p style="text-align: right;">地域教育支援課</p> <p>引き続き、文化財の調査・記録・保存を行い、指定・登録への取組を継続していく。寺社が所蔵している文化財のデジタルデータ化事業を推進していく。          寺社が所蔵している文化財のデジタルデータ化事業を推進していく。          -ア 国際観光客の区内回遊に寄与できるものとして、史跡説明板の英語表記等、文化財を活用した取組を進める。          -イ 区ホームページや広報誌等を活用し、指定・登録文化財の紹介を積極的に行う。調査を行った寺社等の文化財について、その内容を分かりやすい報告書としてまとめ、刊行する。また、史跡めぐりや文化財パネル展示などを通して、多くの区民への地元の文化財や歴史の周知に努める。          -ウ 学校への文化財に関する情報提供を積極的に行っていく。</p>

(3) 教育の今日的課題

子どもの貧困対策の検討・実施

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>41【墨田区子どもの未来応援取組方針の策定】 「東京都子供の生活実態調査」のデータの提供を東京都から受け、墨田区独自の詳細分析を実施した。また、当該詳細分析の結果を受けて、「墨田区子どもの未来応援取組方針」を策定し、関係各課において子どもの未来応援(子どもの貧困対策)を推進できるよう、体制を整えていく。</p>	<p>平成 30 年 3 月 15 日、区民福祉委員会(平成 30 年第 1 回区議会定例会)において、「墨田区子どもの未来応援取組方針」の決定報告をした。</p>	<p>生活福祉課 今後、「墨田区子どもの未来応援取組方針」に基づき、各課所管事業の中で「子どもの未来応援(子どもの貧困対策)」についてそれぞれ検討し、同時に、国や東京都の動きを捉えて新たな制度や補助を活用の上で対策事業を計画的に進めていく。</p>

「放課後子ども総合プラン」の推進

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>42【放課後子ども教室】 ・放課後子ども教室を区立小学校 19 校(うち、いきいきスクール 3 校)で実施した。 実施校数: 19 校(前年度 18 校) 延べ実施回数: 1,613 回(前年度 1,544 回) 延べ参加児童数: 88,782 人(前年度 88,385 人) 延べスタッフ数: 9,969 人(前年度 8,817 人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域住民等で組織される運営委員会に事業を委託して実施しており、前年度と比較し、実施校数、実施回数、参加児童数、スタッフ数のいずれも増加していることから、地域の教育力及び地域で子どもを見守る意識が向上したと考えられる。</li> <li>・放課後子ども総合プランに基づき、学童クラブ事業と連携することにより、内容の充実を図った。</li> </ul>	<p>地域教育支援課 ・全小学校での実施を目指し、引き続き学校や地域との調整を図るとともに、様々な手法を視野に入れて実施方法を検討する。</p>
<p>43【学童クラブ】 平成 29 年 4 月における待機児童数が 187 名であったことから、平成 29 年 7 月に 1 室(定員 24 人)を新規開設したほか、平成 30 年 4 月開設に向けて、新規に 1 室(定員 20 人)及び定員拡大(定員 40 人 55 人)を整備した。これにより、定員は 1,764 人で、平成 29 年より 3.3%増となる予定である。</p>	<p>学童クラブの定員を増やしたことにより、待機児童数に寄与したが、それ以上に申込数が増えたため、待機児童数の減少にはならなかった。</p>	<p>子育て政策課 女性の社会進出や働き方の多様性により、学童クラブを必要とする児童は今後も増えると思込まれることから、引き続き学童クラブの増設を行うほか、放課後の居場所として放課後子ども教室との連携なども合わせて検討していく。</p>

### 「子ども・子育て支援新制度」の推進

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>44【「子ども・子育て支援新制度」の推進】</p> <p>「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」が計画期間の中間年を迎えることから、平成 28 年度に実施した「子ども・子育て支援ニーズ調査」の結果や、人口・保育需要等の動向を踏まえつつ、計画を見直した。</p>	<p>墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会及び墨田区子ども・子育て会議を開催し、計画の見直しについて意見を伺いながら、計画を改訂した。（会議回数：6 回）</p>	<p>子育て支援課</p> <p>現計画が平成 31 年度に終了を迎えることから、次期計画の策定に向けて、区民の実態やニーズを把握する必要があるため、「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査」を実施する。調査にあたり、墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会及び墨田区子ども・子育て会議に諮り、意見を伺いながら進めていく。なお、平成 30 年度の開催回数は、5 回を予定している。</p>

### オリンピック・パラリンピック教育の推進

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>45【オリンピック・パラリンピックに向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校の年間指導計画に基づき、オリンピック・パラリンピック教育を実施している。</li> <li>オリンピック・パラリンピック教育担当者連絡会を開催し、取組内容の情報交換を行い、各校の取組の活性化を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校において、指導計画に基づきオリンピック、アスリート招聘など特色ある取組を実施している。</li> <li>アワード校の実践を連絡会にて発表し、各学校の取組の参考となった。</li> </ul>	<p>指導室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の取組を振り返り、各学校の年間指導計画を見直し、平成 30 年度は、共生社会形成の担い手となることが期待される幼児・児童・生徒にとって必要な資質である「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」を重点的に育成し、東京 2020 大会以降も、レガシーとして長く続くことを見据えた教育活動を展開していく。</li> </ul>

### 教育施設の整備

平成 29 年度の事業の実施状況	成果	平成 30 年度以降の取組
<p>46【総合教育センターの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「墨田区新保健センター等複合施設整備基本計画」に基づき、教育支援センター（ ）の整備について内部検討を行った。</li> </ul> <p>教育指針策定時は「総合教育センター」という名称を使用していたが、現在は「教育支援センター」を使用している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育支援センターの機能の方向性を定めることができた。</li> </ul> <p>教育・相談機能 教育相談に関する総合窓口の統合 サポート学級、ステップ学級の運営 研修・研究部門 教員研修の開催 学力向上や I C T 活用、特別支援などのテ</p>	<p>すみだ教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育支援センターの機能及び人員体制のイメージを関係各所との調整を進めていく。</li> </ul>

	マ別の研究 研究図書、教科書展示	
<p>47【学校施設維持管理事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吾孀第一中学校と立花中学校を統合し、耐震性能に問題のない旧立花中学校の校舎を活用して平成 26 年 4 月に吾孀立花中学校を開校した。</li> <li>・平成 29 年 6 月下旬、吾孀立花中学校校舎新築その他工事に着手した。</li> <li>・非構造部材の耐震化のため外壁改修、ガラス飛散防止フィルム貼付工事等を実施した。また、排水管路の耐震化工事を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 31 年 3 月中旬に吾孀立花中学校新校舎の建築が完了予定</li> <li>・区立学校施設の耐震機能が強化された。</li> </ul>	庶務課
<p>48【学校施設への環境配慮型設備等の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭の一部を芝生化する第一寺島小学校について、校庭整備工事実施設計を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一寺島小学校の一部芝生化についての施工準備が整った。</li> <li>・校舎新築その他工事に着手した吾孀立花中学校において、屋上緑化設備及び太陽光発電設備を導入予定であり、環境教育への一助となることが期待される。</li> </ul>	庶務課
<p>49【学校ICT化推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通教室、特別教室に電子黒板を設置し、教員用タブレット端末を配置、全校にて活用を行った。</li> <li>・振り返りシートやICT活用ビデオ等を共有コンテンツ集に登録し、学校での活用促進を図った。</li> <li>・クラウドサービスの拡充を行った。</li> <li>・ICT機器の操作や不具合等に係るマニュアル等を整備し、ポータルサイトにて運営した。</li> <li>・ICTに係る教員向け研修を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中にICTを活用し指導できる区内教員の割合 82.9%（文部科学省調査(H30.3 現在)）</li> <li>・授業での活用の幅が広がるとともに、他校でのICT活用の事例を確認できるようになった。</li> <li>・より使いやすいサービス利用が可能となった。</li> <li>・操作や不具合等の問い合わせに素早く対応できるようになり、サポートの標準化、強化が進んだ。</li> <li>・操作方法の研修に加え、広報力アップ研修(CMS)や、教員を講師とする研修の実施により研修内容の幅が広がった。</li> </ul>	庶務課